

文教経済

商工業、観光業などに関する経済施策や、小中学校に関する議案等を審査しています。

注目!

安塚雪だるま高原施設 今後の指定管理は?

- 令和元年度一般会計補正予算
- 令和2年度一般会計予算



雪だるま高原キューピットバレイスキー場

問／雪だるま高原施設の指定管理団体が指定管理者を辞退した経緯と今後の市の対応は。

答／今シーズン初めの雪の湯の休館と年末年始の少雪の影響が大きいという報告を受け、指定管理団体の財務状況を確認しながら、減収補てんの協議、検討を重ねてきた。3月4日の取締役会で、指定管理者辞退の意思決定があった。近年の暖冬少雪傾向やスキー人口の減少など、今後も資金繰りが厳しい状況が続くため、今回の決断はやむを得ないのではないかと市では判断している。早急に次の指定管理者選定に取り組みたい。

問／合理性が認められる範囲とどういうことか。また、指定管理者の積算額と市が合理性を認めた額に開きはあったのか。

答／今回、12月から3月までを合理性を認める範囲での算定期間とし、過去3年間の経常損益の実績と今回の見込みの差額を補てんすることとした。3月4日に会社側から今期の経常損益、収支の状況の見込みが示され、その額と今回の減収補てん額は一致しなかったが、協議の中で最終的に決定した。

指定管理者の補てん額の請求

今冬の記録的な少雪によるキューピットバレイスキー場の売上減少について、指定管理の協定書中の「不可抗力により発生した費用等の負担」の規定による指定管理者の請求に基づき、合理性が認められる範囲の4,370万円の減収を補てんします。

■所管事務調査

(上越市立小中学校適正配置基準の見直しについて)

小中学校適正配置

地域への説明は

問／学校の実情を把握し、保護者や地域と十分協議を行いながら、「隣接する学校との統合」「複数校の連携」「施設・設備(ICT機器等)の活用」「教職員体制の整備」を必要に応じて組み合わせ、複式学級解消に向けた方策を行います。

複式学級解消のための

学区設定の考えは

問／国は小中一貫教育の推進を見据えた学区設定、学校統合という方針であるが、市としては複式解消のための学区設定という選択肢はあるのか。

問／全ての議論を子ども中心にするとしているが、統合などを進めていく中で地域へ丁寧の説明し、納得してもらうことが大切ではないか。

答／複式を解消していくことを重点取組にしており、色々なことを想定しつつ議論を進めていく。学区や教員の配置についても同じように検討していく。

答／子どもたちの学びの環境を第一に考えたい。保護者を含め地域の方々の理解を得た上で、複式学級解消に向け関係者との協議は滞りなくやっていきたい。



浦川原区内3校を統合した浦川原小学校 (平成29年4月)